

市民活動の持続可能性の規定要因に関する研究

羽鳥 剛史¹・片岡 由香²・尾崎 誠³

¹正会員 愛媛大学大学院准教授 理工学研究科生産環境工学専攻 (〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番)
E-mail:hatori@cee.ehime-u.ac.jp

²正会員 愛媛大学防災情報研究センター助教 (〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番)

³非会員 愛媛大学工学部環境建設工学科

近年、地域社会の課題に対して、市民自身が自主的・自発的に取り組み、課題解決に貢献する様々な市民活動の事例が増えつつある。しかし、市民活動の中には、当初の理念や問題意識が薄れていき、その活動が長続きしない事例も少なからず見受けられる。本研究では、市民活動の持続可能性の規定要因を明らかにすることを目的として、一般市民を対象として、市民活動への参加状況やその活動期間の実態を調査した。それと同時に、本調査では、市民活動の持続可能性に関わる要因として、地域の問題に対する「発言意図」、地域からの「離脱意図」、「地域愛着」や「創造性」等について測定した。この調査の結果から、市民活動の持続可能性に寄与する要因やその構造的プロセスについて検討した。

Key Words : civic activity, sustainability, place attachment, cultural capital

1. はじめに

まちづくりや地域づくり等、地域の固有性が重要となる活動においては、市民自身の自発的・主体的な参画が不可欠な役割を担う場合が少なくない。実際、都市政策、産業・観光振興、地域防災をはじめ様々な分野において、一般市民や市民組織が新しい事業や政策を企画・立案し、そのアイデアや創意工夫により地域の課題解決を図ろうとする市民活動が全国各地で実施されつつある。

しかし、市民活動を進める上では、市民一人一人が相応の労力を負担することが必要となるが、市民がそうした負担を受け入れ、当該の市民活動に主体的に参加するとは限らない。また、市民の新しいアイデアや創意工夫を重ねる余り、地域の実情に合わない奇抜な提案が為され、その取り組みが地域に根付かないことも考えられる。さらに、こうした市民活動の中には、当初の理念や問題意識が薄れていき、その活動が長続きしない事例も少なからず見受けられる。

以上の問題意識の下、本研究では、市民活動の持続可能性の規定要因を明らかにすることを目的として、一般市民を対象として、市民活動への参加状況やその活動期間の実態を調査した。それと同時に、市民活動の持続可能性に関わる要因として、地域の問題に対する「発言意

図」、地域からの「離脱意図」、「地域愛着」や「創造性」等について測定した。この調査の結果から、市民活動の持続可能性に寄与する要因やその心的プロセスについて検討することとした。

2. 本研究の仮説

(1) 市民活動の持続可能性に関する規定要因

市民活動は、当該地域の問題に自分自身が関与することを表しており、そうした関与は人々と地域との精神的・情緒的な結びつきによって支えられている可能性が考えられる。この点に関して、市民活動の規定要因として、地域愛着 (place attachment) が重要な役割を担うことが指摘されている。例えば、鈴木・藤井 (2008) は、地域愛着が高い人ほど、町内活動やまちづくり活動といった地域への活動に対して熱心であることを指摘している¹⁾。

その一方で、地域愛着の負の効果として、地域愛着が地域への固執性を高め、市民活動を却って抑制する可能性があることも指摘されている。Florida(2002)等の議論によれば、教育水準が高く、新しい発想や技術を有する「クリエイティブクラス」こそが都市・地域の成長・発展を推進する主体と考えられるが、こうした「クリエイ

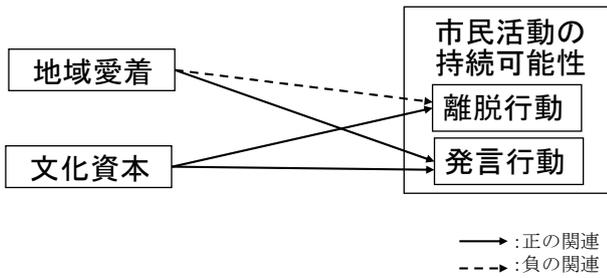


図-1 本研究の仮説

ティブクラス」においては、地域との結びつきはむしろ低いものと考えられる²⁾。

Lewicka(2005)は、以上の議論を踏まえて、人々の教育水準やクリエイティブクラス特有の知的好奇心を「文化資本 (cultural capital)」と呼称し、地域愛着と文化資本が市民活動に及ぼす影響について検討している³⁾。その結果、地域愛着は地域の歴史に対する興味を喚起することにより間接的に市民活動を促進する効果をもつ一方で、直接的には市民活動を抑制する効果を持つことが示されている。それと同時に、文化資本は市民活動を直接的に促進する効果を持つことが示されている。

(2) 本研究の仮説

しかし、以上の先行研究では、市民活動の持続可能性については考慮されていない。そこで、本研究では、Hirschman の「離脱」と「発言」の概念⁴⁾を用いて、地域愛着と文化資本が市民活動の持続可能性とどのような関連性を持ち得るかについて検討する。ここで、「離脱」とは、地域に問題が生じた時、当該地域から離れる行動を表し、「発言」とは、地域に問題が生じた時、その問題の解決に向けて働きかける行動を表している。

まず、羽鳥 (2012) は、地域愛着が高い人ほど、地域で問題が生じても離脱する傾向が低く、その問題解決に向けて発言する傾向が高いことを指摘している⁵⁾。その一方で、Florida(2002)が論じるクリエイティブクラスは、地域において新しいことを生み出すために発言する傾向が高い一方で、自分の能力が活かせる場所に移動していく傾向も高いものと考えられる。

以上の議論を踏まえて、本研究では、「地域愛着」及び「文化資本」と地域住民の「離脱行動」及び「発言行動」との関連について、図-1 の仮説を措定し、これらの規定要因が市民活動の持続可能性に及ぼす影響を検討する。

3. 調査

(1) 調査対象

本研究の調査対象地として、愛媛県を東予・中予・南

表-1 質問項目

「地域愛着」に関する項目 (α=931)
鈴木他 (2008) を基にして、「あなたは、「お住まいのまち」に住みやすいと思いますか?」「あなたは、「お住まいのまち」にお気に入りの場所がありますか?」「あなたは、「お住まいのまち」を歩くのは気持ちよいと思いますか?」「あなたは、「お住まいのまち」ではリラックスできますか?」「あなたは、「お住まいのまち」の雰囲気や土地柄が気に入っていますか?」「あなたは、「お住まいのまち」が好きですか?」「あなたは、「お住まいのまち」は大切に感じますか?」「あなたは、「お住まいのまち」に自分の居場所があると思いますか?」「あなたは、「お住まいのまち」にずっと住み続けたいと思いますか?」「あなたは、「お住まいのまち」に愛着を感じていますか?」「あなたは、「お住まいのまち」は自分のまちという感じがしますか?」「あなたは、「お住まいのまち」にいつまでも変わって欲しくないものがありますか?」「あなたは、「お住まいのまち」になくなってしまおうと悲しいものがありますか?」の13項目から「地域愛着」尺度を構成した。
「文化資本」に関する項目 (α=866)
Cason et al. (2005) と Kaufman (2006) で用いられた質問項目を基にして、「美術、音楽、ダンス、建築デザイン、物書き、ユーモア、発明、科学探究、演劇や映画製作、料理」の10分野それぞれについて創造性を自己評価してもらい、「文化資本」尺度を構成した。
発言意図 (α=864) と離脱意図 (α=847) に関する項目
羽鳥 (2012) を基にして、「「お住まいのまち」の問題について近隣の住民と話し合いたいと思いますか?」、「「お住まいのまち」をより良くするために意見を言いたいと思いますか?」、「「お住まいのまち」での話し合いやイベントに積極的に参加したいと思いますか?」、「「お住まいのまち」で問題が発生したとき、その解決に向けて積極的に発言すべきだと思いますか?」の4項目から「発言意図」の尺度を構成した。同様に、「近い将来、他の「まち」に移るつもりがありますか?」、「もし可能ならば他の「まち」に移りたいと思いますか?」、「これから先、「お住まいのまち」にとどまるつもりがありますか?」の3項目から「離脱意図」の尺度を構成した。
まちの取り組みに対する態度に関する項目
羽鳥他 (2013) を基にして、「あなたにとって、「まちの取り組み」に携わることは可能だと思いますか?」、「【実行可能性評価】、「あなたは「まちの取り組み」に参加したいと思いますか?」、「【参加意欲】、「あなたは、自分自身が「まちの取り組み」に携わることによって、まちを大きく変えられると思いますか?」、「【対処有効性認知】、「あなたは、「お住まいのまち」の「まちの取り組み」に興味がありますか?」、「【興味関心】、「「まちの取り組み」は熱心な人に任せればよいと思いますか?」、「【消極性】、「「まちの取り組み」は行政に任せればよいと思いますか?」、「【行政依存度】、「あなたは、新しい居住者には「まちの取り組み」に関わってほしくないと思いますか?」、「あなたは、よそ者には「まちの取り組み」に関わってほしくないと思いますか?」、「【排他性】、「あなたは、古いきたりや伝統に縛られずに「お住まいのまち」を変えたいと思いますか?」、「あなたは、「お住まいのまち」の「まちの取り組み」を進める上で、古いきたりや伝統は邪魔になるとは思いますか?」、「【伝統軽視】、「あなたは、他の地域の「まちの取り組み」の成功例を知っていますか?」、「【成功例認知】、「近隣の住民は、あなたが「まちの取り組み」に携わることを喜んでいると思いますか?」、「【周囲の賛成】、「近隣の住民は、「まちの取り組み」に携わる人を高く評価していると思いますか?」、「【社会適応機能】、「近隣の住民は、あなたが、「まちの取り組み」に携わることに對して、賛成していると思いますか?」、「【主観的規範】、「あなたが、「まちの取り組み」に携わる時の人間関係は良好であると思いますか?」、「【人間関係】、「あなたが、「まちの取り組み」に携わる時に、手助けしてくれる人は、どれくらいいると思いますか?」、「【手伝ってくれる人の存在】という質問項目を設けた。
市民活動の実態に関する項目
内閣府 (2008) で用いられた質問項目を基に、調査対象者がこれまで携わった市民活動について、「活動名、活動分野、活動期間、活動頻度、活動人数、活動内容、活動範囲、活動意向」の回答を要請し、その回答より、「持続可能性1」尺度と「持続可能性2」尺度を構成した。

予の3つのブロックに分け、それぞれのブロックから1つの地域を選定した。地域はブロックの順に今治市・松山市・内子町であり、それぞれの地域住民を対象としてアンケート調査を実施した。また、無作為抽出法を行うため、対象地域を地区にさらに分割し、それぞれ100の地区を無作為抽出した。そして、1つの地区に対して20部ずつ配布し、合計で2000部の調査票を各世帯のポストに投函し、調査票への回答を依頼した。調査票の回収方法については、後日郵送で返信してもらう形式を用いた。その結果、597名の住民の方から回答(回収率29.9%)を得た。調査対象者の性別は、男性286人、女性305人であった。年齢構成は、最小18歳、最大94歳であり、平均年齢は60.69歳、標準偏差は14.75であった。

(2) 調査項目

本調査の質問項目を表-1に示す。なお、本調査では、「お住まいのまち」とは「調査対象者の居住地の小・中

表-2 地域愛着及び文化資本と発言意図及び離脱意図との関連性に関する重回帰分析

(説明変数)	発言意図 (R ² = .208)			離脱意図 (R ² = .317)		
	β	t	p	β	t	p
地域愛着	.44	10.23	.000 **	-.56	-14.15	.000 **
文化資本	.11	2.53	.012 *	.10	2.50	.013 *

*:p<.05, **:p<.01

表-3 市民活動のタイプに関する重回帰分析

(説明変数)	地縁的な活動 (R ² = .110)			スポーツ・趣味・娯楽活動 (R ² = .097)		
	β	t	p	β	t	p
地域愛着	-.01	-.13	.900	.13	2.09	.038 *
文化資本	.06	1.24	.218	.09	1.81	.072
発言意図	.29	5.48	.000 **	.22	4.07	.000 **
離脱意図	-.08	-1.34	.183	.03	.48	.630

(説明変数)	ボランティア・NPO・市民活動 (R ² = .073)			その他の団体・活動 (R ² = .089)		
	β	t	p	β	t	p
地域愛着	.09	1.39	.166	.05	.79	.433
文化資本	.01	.19	.849	.17	3.44	.001 **
発言意図	.25	4.55	.000 **	.21	3.96	.000 **
離脱意図	.14	2.38	.018 *	.08	1.39	.165

*:p<.05, **:p<.01

学校の校区(学区)の程度の広さ」であることを明記している。

まず「地域愛着」に関して、鈴木他(2008)で用いられた13の質問項目を設定し、7件法で回答を要請した⁹⁾。そして、これら13項目の加算平均から「地域愛着」尺度を構成した。そして、これら13項目の加算平均から「地域愛着」尺度を構成した。次に、「文化資本」に関して、Cason et al. (2005)⁶⁾とKaufman(2006)⁷⁾で用いられた質問項目を基にして、“美術、音楽、ダンス、建築デザイン、物書き、ユーモア、発明、科学探究、演劇や映画製作、料理”の10の分野それぞれについて“あなたがどの程度創造性があるか評価してください”という質問項目を設け、それぞれについて「全く創造性がない」から「非常に創造性がある」までの6件法で回答を要請した。そして、これら10項目の加算平均から「文化資本」尺度を構成した。「発言意図」と「離脱意図」については、羽鳥(2012)で用いられた質問項目を設定し、各項目の加算平均から「発言意図」「離脱意図」の尺度を構成した⁹⁾。まちの取り組みに対する意識に関する項目として、羽鳥他(2013)⁸⁾で用いられた質問項目を基にして、「実行可能性評価」「対処有効性認知」「興味関心」「消極性」「行政依存度」「排他性」「伝統軽視」「成功例認知」「周囲の賛成」「社会適応機能」「主観的規範」「人間関係」「手伝ってくれる人の存在」についての設問を設定し、それぞれ7件法で回答を要請した。最後に、市民活動に関する項目として、内閣府(2008)で用いられた質問項目を基に、調査対象者がこれまで携わってこられた市民活動についての質問項目を設け、“活動名、活動分野、活動期間、活動頻度、活動人数、活動内容、活動範囲、活動意向”の回答を要請した⁹⁾。なお、

活動意向は“今後も参加を続けたいと思いますか?”という質問項目を設け、「全くそう思わない」から「とてもそう思う」までの5件法で回答を要請し、「持続可能性1」尺度とした。また、活動期間は「過去に参加していたが既に脱退した」と「現在参加している」のどちらかを選択してもらった上で活動を始めた時期と終えた時期の回答を要請し、「過去に参加していたが既に脱退した」に該当する人の活動年数を「持続可能性2」尺度とした。

4. 結果と考察

(1) 地域愛着及び文化資本と発言意図及び離脱意図との関連性

「地域愛着」と「文化資本」を説明変数、「発言意図」と「離脱意図」を従属変数としてそれぞれ重回帰分析を行った。その結果を表-2に示す。この表に示されているように、「発言意図」に関しては、「地域愛着」と「文化資本」共に有意に正の関連性を有することが示された。また、「離脱意図」に関しては、「地域愛着」と有意に負の関連性を有する一方で、「文化資本」と有意に正の関連性を有することが示された。この結果より、「地域愛着」が高い人ほど、発言傾向が高くなり、離脱傾向が低くなる一方で、「文化資本」が高い人ほど、発言傾向が高くなるが、離脱傾向も高くなる傾向にある可能性が考えられる。

(2) 発言意図及び離脱意図と市民活動のタイプとの関連性

「市民活動」のタイプを従属変数、「発言意図」と

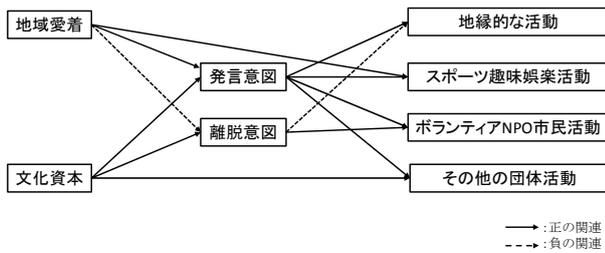


図-2 市民活動のタイプと各項目の関連

「離脱意図」を説明変数とした重回帰分析の結果を表-3に示す。この表に示すように、発言意図はすべての市民活動と正の関連性を有している。また、離脱意図は地縁的な活動と負の関連性を有する一方で、ボランティア活動とは正の関連性を有する結果となった。

以上の結果と前節の結果をまとめると、地域愛着と文化資本が市民活動に及ぼす影響に関して、図-2に示す関係が成立する可能性が考えられる。

(3) 地域愛着と文化資本と市民活動の持続可能性との関連性

次に、「地域愛着」と「文化資本」、「まちの取り組みに対する態度」に関わる諸変数を説明変数、「持続可能性1」と「持続可能性2」を従属変数としてそれぞれ重回帰分析(ステップ・ワイズ法)を行った。その結果、「持続可能性1」に関しては、表-4に示すように、「消極性」が有意な負の関連を持っており、「周囲の喜び」が有意な正の関連を持っていることが示された。また、「持続可能性2」に関しては、表-5に示すように、「伝統軽視2」が有意な負の関連をもっていることが示された。このことは、「消極性」や「伝統軽視」の傾向が低い人ほど、持続可能性が高くなる傾向があることを示し、「周囲の喜び」が高い人ほど、持続可能性が高くなることを示す結果であると考えられる。

次に、「地域愛着」と「文化資本」を説明変数、「まちの取り組みに対する態度」の中で、先の分析で抽出された「消極性」「周囲の喜び」「伝統軽視2」の3変数をそれぞれ従属変数として重回帰分析を行った。その結果を表-6に示す。この表に示されているように、「消極性」と「伝統軽視2」に関しては、「地域愛着」が有意な負の関連を持っていることが示された。また、「周囲の喜び」に関しては、「地域愛着」と「文化資本」の両方が有意な正の関連を持っていることが示された。こ

表-6 地域愛着及び文化資本とまちの取り組みに対する態度との関連性に関する重回帰分析

(説明変数)	消極性 (R ² = .013)			周囲の喜び (R ² = .145)			伝統軽視2 (R ² = .027)		
	β	t	p	β	t	p	β	t	p
地域愛着	-.115	-2.514	.012 *	.304	7.103	.000 **	-.165	-3.525	.000 **
文化資本	-.049	-1.059	.290	.208	4.862	.000 **	-.036	-.778	.437

*:p<.05, **:p<.01

表-3 市民活動の持続可能性1に関する重回帰分析

(説明変数)	持続可能性1 (R ² = .145)		
	β	t	p
消極性	-.195 *	-1.997	.049
周囲の喜び	.275 **	2.818	.006

*:p<.05, **:p<.01

表-4 市民活動の持続可能性2に関する重回帰分析

(説明変数)	持続可能性2 (R ² = .122)		
	β	t	p
伝統軽視2	-.349 *	-2.387	.022

*:p<.05

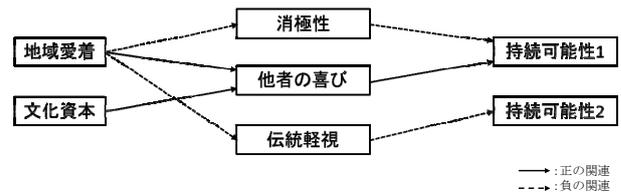


図-3 市民活動の持続可能性と各項目の関連

の結果は、「地域愛着」が高い人ほど、「周囲の喜び」が高くなる傾向にある一方で、「消極性」や「伝統軽視」が低くなる傾向にあることを示している。それと同時に、「文化資本」が高い人ほど、「周囲の喜び」が高くなる傾向にある可能性を示している。

以上の結果より、地域愛着と文化資本が市民活動の持続可能性に及ぼす影響に関して、図-3に示す関係が成立する可能性が考えられる。

5. 結論

市民活動の規定要因と離脱意図・発言意図との関連性についての結果より、地域愛着が高い人ほど、発言意図が高く離脱意図が低い可能性が示された。また、文化資本が高い人ほど、発言意図が高い一方で、離脱意図も高い可能性が示された。さらに、地域愛着は、まちの取り組みに対する諸態度を介して市民活動の持続可能性を高めるという関係が成立している可能性が示された。以上の結果は、本研究の仮説を支持するものと考えられる。

参考文献

- 1) 鈴木春菜・藤井聡：地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究，土木計画学会論文集，Vol.25, No.2, 2008.
- 2) Florida, R.: クリエイティブ資本論，ダイヤモンド社，2002.
- 3) Lewicka, M.: Ways to make people active: The role of place attachment, cultural capital, and neighborhood ties, *Journal of Environmental Psychology*

- g), Vol. 25, 2005.
- 4) Hirschman, A. O.: *Exit, Voice, and Loyalty: Responses to Decline in Firms, Organizations, and States*, Cambridge, MA: Harvard University Press, 1970. (矢野修一訳：離脱・発言・忠誠：企業・組織・国家における衰退への反応，ミネルヴァ書房，2005.)
 - 5) 羽鳥剛史：地域コミュニティにおける離脱と発言に関する研究-A・O ハーシュマンの離脱・発言理論の示唆 - ，都市計画論文集, Vol. 47, No. 3, 2012.
 - 6) Carson, S., Peterson, J. B., & Higgins, D. M.: Reliability, validity, and factor structure of the creative achievement questionnaire, *Creativity Research Journal*, Vol. 17, No.1, 2005.
 - 7) KAUFMAN, J. C.: Self-reported differences creativity by ethnicity and gender, *Applied Cognitive Psychology*, Vol. 20, 2006.
 - 8) 羽鳥剛史・藤井聡・住永哲史：地域コミュニティ保守行動の規定要因に関する実証的研究-“地域カリスマ”による超利他的動機の個人的要因と地域的要因-，行動計量学, Vol. 40, No. 1, 2013.
 - 9) 内閣府：市民活動団体等基本調査報告書，2008.

(2015.4.24受付)